

研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名：“食”に関わるライフログ共有技術基盤
2. 研究代表者名及び主たる研究参加者名(研究機関名・職名は研究参加期間終了時点):

研究代表者

相澤 清晴 (東京大学大学院情報学環 教授)

主たる共同研究者

廣瀬 通孝(東京大学大学院情報理工学系研究科 教授)

橋本 真幸((株)KDDI 研究所 プロジェクトリーダー)

小川 誠(foo. Log(株) 代表取締役社長)(平成 22 年 4 月～)

3. 事後評価結果

○総合評価コメント:

本研究では、食事に関する新しいマルチメディア情報環境を通じ、人の健康や生活の向上に実証的に貢献することを目的としている。本研究の結果、世界に先駆け、写真をアップロードするだけで、日常食を記録し、画像処理を施して食事日誌を作成できる FoodLog の構築、FoodLog のプラットフォーム化と大規模運用、スマートフォンベースの画像検索で支援する FoodLog の実現と運用、食品の大きさだけを視覚的に制御する方式の実現とその効果の実証などの成果が得られた。これらの成果に基づいて、IEEE Transactions、Presence 等の高水準学術誌や、ACM Multimedia、CHI 等のトップカンファレンスも含む多数の論文発表が行われた。また、ベンチャー企業 foo.log の起業にもつながった。ネットワークの形成も活発に行われており、FoodLog プラットフォームが foo.log を経由して合計 28 の産官学の組織に提供され、そのうち 14 は実サービスが提供されるに至った。栄養・医療系の病院、研究機関との共同実験も、東京大学、国立健康・栄養研究所、香川大学、慶応大学等、広汎に行われた。今後は、foo.log で収集した食に関する大規模データの活用、フードライフログデータの標準化、食そのもののみならず、健康や医療などに関する様々なサービス基盤への発展を期待する。